

平成17年度市政モニター 第1回アンケート結果

テーマ 1 : 「援農ボランティア」について

テーマ 2 : ごみ減量意識の変化と発生抑制について

八王子市総合政策部広聴広報室

目 次

テーマ1 : 「援農ボランティア」について	1
テーマ2 : ごみ減量意識の変化と発生抑制について	19

≪ 市政モニターの属性 ≫

(太枠内は今回の回収数)

		一般		Eメール		合計	
全体		41	40	57	55	98	95
性別	男性	14	14	26	24	40	38
	女性	27	26	31	31	58	57
年代	10歳代	1	1	1	1	2	2
	20歳代	5	4	7	7	12	11
	30歳代	11	11	21	21	32	32
	40歳代	0	0	8	7	8	7
	50歳代	4	4	9	8	13	12
	60歳代	13	13	6	6	19	19
	70歳代	7	7	5	5	12	12
地域	中央 (本庁地区)	5	5	13	12	18	17
	西南部 (浅川・横山・館地区)	9	9	13	12	22	21
	東部 (由木・由木東・南大沢地区)	5	5	9	9	14	14
	西部 (元八王子・恩方・川口地区)	10	10	6	6	16	16
	東南部 (由井・北野地区)	8	7	13	13	21	20
	北部 (加住・石川地区)	4	4	3	3	7	7

※ アンケート実施期間:平成 17 年 6 月 4 日から 平成 17 年 6 月 17 日まで ※回収率:96.9%

※ 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表示した。(百分率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出してあるため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。)

テーマ1 「援農ボランティア」について

産業振興部 農林課

農業経営をとりまく環境は、一段と厳しさを増しています。特に、農業従事者の減少による農地の遊休化は深刻な状況です。

本市では、基本構想・基本計画『八王子ゆめおりプラン』の中で、「ふれあい農業の推進」を掲げ、高齢者が安心して農業を続けることができるよう、「農業に関心を持つ一般市民が農家の農作業を手助けする」援農ボランティアを育成することとしています。

そこで、援農ボランティア制度の創設の参考とするため、皆さんの農業への参加意向や参加する場合の条件などについてお伺いします。

問1. 援農ボランティアで、興味があることはなんですか。(〇は2つまで)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
野菜等を作る農作業の体験がしたい	41.1	30.0	49.1
栽培技術等を習得できる・農業を理解できる	24.2	15.0	30.9
健康や気分転換によい	24.2	20.0	27.3
地域の農業や農地を残したい	23.2	37.5	12.7
余暇を利用して農業を応援したい	21.1	25.0	18.2
地域で友達や仲間ができる	17.9	15.0	20.0
地域の環境保全に貢献できる	14.7	15.0	14.5
その他	8.4	10.0	7.3
興味がない	6.3	10.0	3.6

◆援農ボランティアで、興味があることは何か聞いたところ、「野菜等を作る農作業の体験がしたい」が41.1%と最も高く、「栽培技術等を習得できる・農業を理解できる」と「健康や気分転換によい」が24.2%で続いている。

その他

1. 生産することの喜びを味わえる。
2. 今は無理だがいつかやってみたい。
3. 八王子産のブランドのもの。
4. 農業を体験したい市民への道がひらける。
5. ある程度農業の実態がわかる。
6. 強制は意味がないが、高校生までの公立の生徒は半強制でやらせるべき。

7. 現在20坪ほどの家庭菜園を楽しんでおり、参加するつもりは無い。
8. 市内の農業の必然性が分からない中での援農は、目的が分かりにくい。
9. 市のホームページで、八王子産農作物をPRしてみたい。
10. モニター連絡会でのお話で少しは必要性を感じたが、もう少しよく事情を把握しないと、現状ではあまり興味がない。
11. 幼稚園、保育園、学校単位でできれば良いのではないかと思う。

問2. どのような農作業をやってみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
収穫	66.3	62.5	69.1
種まき・定植(苗を植えること)	45.3	40.0	49.1
農作業全般	40.0	37.5	41.8
土づくり、堆肥づくり	29.5	40.0	21.8
耕耘(田畑を耕すこと)・うね立て(作物を植えついたり種をまいたりするため、畑の土を幾筋も平行に盛り上げること)	20.0	20.0	20.0
販売	20.0	25.0	16.4
除草	17.9	20.0	16.4
その他	8.4	5.0	10.9
やってみたいとは思わない	4.2	10.0	0.0

◆ どのような農作業をやってみたいか聞いたところ、「収穫」が66.3%と最も高く、「種まき・定植」が45.3%、「農作業全般」が40.0%と4割を超えている。

その他

1. 農薬の効用と散布。
2. 試験的実験農場(ぜんまい作り。タニシ、ドジョウの養殖)。
3. 作業要領と理論の習得。
4. 農産物を原料とした加工食品製造と販売。
5. 援農ボランティア有志との交流・推進データの取りまとめなど。
6. 農作物の販売促進活動なら、一般の市民でもお手伝いしやすいと思う。

問3. どのような農業(種類)をやってみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
野菜	78.9	80.0	78.2
果樹	57.9	55.0	60.0
花卉(花づくり)	40.0	50.0	32.7

水田	25.3	12.5	34.5
畜産	7.4	2.5	10.9
その他	4.2	2.5	5.5
やってみたいとは思わない	5.3	10.0	1.8
無回答	1.1	0.0	1.8

◆どのような農業（種類）をやってみたいか聞いたところ、「野菜」が78.9%と8割近くを占め、「果樹」も57.9%と5割を超えている。また、「花卉」は40.0%だった。一方、「やってみたいとは思わない」は、5.3%だった。

その他

1. 実験農場（水、土質、光、虫、昆虫、鳥等の関係）他、養蚕業（桑、蚕、生糸、織物）羊飼（羊毛とジンギスカン）。
2. 燻製、チーズ。

問4. どのような条件なら参加したいですか。（○は2つまで）

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
農作物が提供される	61.1	55.0	65.5
時間的な制約が厳しくない	48.4	45.0	50.9
報酬が支払われる	22.1	30.0	16.4
交通費程度の支給がある	21.1	20.0	21.8
適切な農業技術指導が受けられる	20.0	15.0	23.6
参加したくない	5.3	7.5	3.6
一定規模の農地の耕作をある程度任せてもらえる	4.2	2.5	5.5
その他	4.2	5.0	3.6

◆どのような条件なら参加したいか聞いたところ、「農作物が提供される」が61.1%と6割を超えて最も高く、「時間的な制約が厳しくない」が48.4%と続いている。

その他

1. 参加したくないに近いが、今は参加する時間がない。
2. 援農を依頼した農家の人柄。
3. 子どもが参加出来ること。
4. 農作業道具への支援がある。

問5. 問4で「1 報酬が支払われる」とお答えの方にお聞きします。

報酬の金額はどの程度が適当だと思いますか。(○は1つだけ)

	(n=20)	(n=12)	(n=8)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
日額2,000円以上5,000円未満	75.0	91.7	50.0
日額2,000円未満	15.0	0.0	37.5
日額5,000円以上	10.0	8.3	12.5

◆報酬の金額はどの程度が適当か聞いたところ、「日額2,000円以上5,000円未満」が75.0%と最も高かった。

問6. ボランティアとしての登録期間はどの程度が適当だと思いますか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
1年間	45.3	45.0	45.5
2年間	29.5	30.0	29.1
1年未満	15.8	15.0	16.4
3年間	6.3	7.5	5.5
4年間	0.0	0.0	0.0
5年以上	1.1	2.5	0.0

◆ボランティアとしての登録期間はどの程度が適当か聞いたところ、「1年間」が45.3%と最も高く、「2年間」が29.5%、「1年未満」が15.8%と続いた。

その他

1. 更新できればよい。

問7. ボランティア活動の頻度はどの程度が適当だと思いますか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
月に2~3回程度	33.7	32.5	34.5
週1回程度	27.4	32.5	23.6
月に1回程度	23.2	17.5	27.3
週に2~3回	6.3	5.0	7.3
その他	4.2	2.5	5.5
2~3ヶ月に1回	2.1	5.0	0.0
年に1~2回程度	2.1	5.0	0.0
無回答	1.1	0.0	1.8
ほぼ毎日	0.0	0.0	0.0

◆ボランティア活動の頻度はどの程度が適当か聞いたところ、「月に2～3回程度」が33.7%と最も高く、「週1回程度」が27.4%、「月に1回程度」は23.2%だった。

その他

1. その月によっては、月に2回～3回も可能。
2. 特に労力が必要なとき。
3. 自由度が必要。強制になると難しい。しかし、ボランティアは続けて3ヶ月ぐらいで週に2～3回、人それぞれの事情に合わせられること。

問8. 自宅からどの程度の距離が適当だと思いますか。(○は1つでも)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
30分以内	42.1	50.0	36.4
20分以内	30.5	20.0	38.2
1時間以内	11.6	10.0	12.7
時間に関係なく市内全域	10.5	12.5	9.1
10分以内	4.2	7.5	1.8
無回答	1.1	0.0	1.8

◆自宅からどの程度の距離が適当か聞いたところ、「30分以内」が42.1%と4割を超えている。また、「20分以内」も30.5%と高かった。

問9. 自宅からの交通手段は、何をご利用になりますか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
自家用車	40.0	35.0	43.6
自転車・バイク	29.5	22.5	34.5
徒歩	14.7	15.0	14.5
バス	13.7	25.0	5.5
無回答	2.1	2.5	1.8

◆自宅からの交通手段は、何を利用するか聞いたところ、「自家用車」が40.0%と最も高く、「自転車・バイク」が29.5%、「徒歩」が14.7%と続いている。

その他

1. 距離や、場所による。

問10. あなたは、このような農作業を手伝う援農ボランティア活動に参加したいですか。
(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
条件が合えば参加したい	70.5	62.5	76.4
参加したい	18.9	25.0	14.5
参加したいとは思わない	9.5	12.5	7.3
無回答	1.1	0.0	1.8

◆農作業を手伝う援農ボランティア活動に参加したいか聞いたところ、「条件が合えば参加したい」が70.5%と7割を超えている。一方、「参加したいとは思わない」は9.5%だった。

問11. 農業をとりまく環境は極めて厳しいものがあります。農産物価格の低迷や担い手の高齢化など大きな課題を抱えています。どうすれば農業の活性化がはかれるのかご意見やご要望をご記入ください。(自由記入)

1. 海外野菜の値段だけにとらわれなくて、国産野菜をどんどん消費すると良いと思う。
2. 学校などで「農業」の授業を行い、子どもたちや若い世代の人たちに「農業」に興味を持ってもらう。この授業では月2回程度、2時間の農業実体験授業ができる。これを実現させるためには、耕地の確保や農業にたずさわる教え手の確保などの課題をこなさなければいけないが、なかなかいいアイデアだと思う。情操教育にもなると思う。
3. 農家がそれぞれの農地を提供し、会社化する。農地提供農家は株主のような存在。できるだけ機械化をはかり、耕作物も消費者の意向を重視する。(同様意見2件あり)
4. やはり土と関わるのが少ない時代なので、子どもの頃から親しむ環境があることが大切だと思う。保育園～高校までの間に、何度も体験機会を作るような働きかけがあると良いのでは。アルバイト情報、チラシや市広報などに手伝える人を募集し、費用は一部市が負担する。集合住宅に希望者を募り、集団で農作業を農家の指導のもとで行い、できた農作物は参加した人たちで分ける。家族の交流の場にもなる。
5. 農産物の価格は、市場経済の下ではある程度しかたのないことだが、店頭販売の形をとらなければ低価格で採算に見合うことが出来ると思う。ただし、農家の人手不足、後継者難が最も大きなネックであることははっきりしている。
方策として、①近隣農家をグループ編成する。②ボランティアをグループ編成する。
1農家対1個人「ボランティア」では双方が窮屈である。共同経営者のような農家として、対象農地の選定、協働作業員としてのボランティアの人たちに対する指導者の選定、作物の選定等を決定する。作品は地元で販売する。市広報に販売場所、その時々々の販売作品を掲示する。
6. 遊休地を農業者に(低利で)貸し出して、土地を広くもたせ費用対効果をあげ、ま

たは、退職者を養成して農業に従事させ（自然派は最近多い）、より効率的且つ営利的に運営する。子孫も承継出来る様な、魅力ある農業経営を企画する。

7. 農家にとって役立つほどのボランティアをするには、かなりの経験と知識がないと不可能だと思う。たとえば、農業をするのにはたくさんの工夫ややり方や道具の使い方を知らなければならず、素人ができるようになるには時間がかかる。農家の方がいちいち教えるよりも、農家の方だけで作業したほうが効率はいいはずである。ボランティアを受け入れることが農家にとって負担になり得ると私は危惧する。もちろん農業を経験したことがある人で、効率よく作業できる人はいるだろうが、数的にごく少人数であろう。そのような人に対しては、多少の報酬をつけてボランティアする意義がある。もし、広く市民の農業に触れる体験の場を提供するのならば、援農ボランティアという形ではなく、環境教育の一環として農作業をやればよいと思う。
8. 知人で農地を借りて市民農業を楽しんでいる人がいるが、農地を貸してくれる人を見つけることは難しい。空き地を借りたいと思うが、なかなか見つからない。遊休農地や空き地を市が中間に入り、仲介する仕組みが不可欠だと思う。是非仕組みを作って欲しい。行政が援農ボランティアを育成する事業は、数年前八王子市で実施されたはずだ。しかし、施策が終わると行政の関与がなくなり、援農ボランティアはほぼ消滅状態だろう。きっかけづくりを行政が行うことは必要であるが、次の段階では環境系のNPO法人に担当させると良い。継続的なボランティアの育成こそが、社会を変える力となる。市内のNPOが育ってきており、この事業の計画段階からNPOや市民に参画させることが出来ると思う。
9. 私の農業に対するイメージは、「伝統業で代々農家でなければやっていけない」というイメージである。また、収入が安定しないため、農業だけでは食べていけないのではないだろうかとも思う。このようなイメージを持っている方は少なからずいると思うので、もっと農業に関する情報をオープンにすると良いのではないかと思う。現状をもっと知りたい。
10. 教育委員会と連携して、中高での授業の一環として農業ボランティアを取り入れてはどうだろうか。あるいは交通違反者（軽度のスピード違反、違法駐車等）に対し罰金としての労働等も考えられる。南大沢地区では団地が多く、その多くは団塊の世代で元気であるが、することがないという人が溢れてくると思う。一人ではボランティアに参加しにくいので、各町内会に呼びかけ、町内会単位で呼びかける方法をとったら良いと思う。これから農業を支えていこうとするなら、農業分野の人材派遣会社などを利用し、その資金援助をしていく方法のほうが確かかもしれない。
11. 価格に関しては、安ければ良いという時代は終わったと思う。多少高くても無農薬とか、有機野菜とか付加価値をつけた安全な物をどんどんPRすべきである。そしてボランティア制度はとても良い制度だと思うので、中高年以上の人を対象に広めていただきたい。
12. (1) 農業担い手の高齢化、手不足を補うため、質の高い安定した「援農ボランティア制度」を確立する。

(2) 地産・地消体制の確立と充実。

ア．流通ルートの確立。消費者に生産者の顔の見える産品を提供する。

イ．食品スーパー等に「地産品コーナー」を設け、鮮度と味覚の優位性を売る。
価格は若干高くても十分対抗可能と思う。

13. 特に意見なし。自分の生活が一杯で、自分から積極的に農業そのものを考えることが出来ないから。
14. 地産地消を推進するとあるが、スーパーなどではあまり八王子の農産物を見かけないような気がする。スーパーで、もっと並べてもらえるようにはできないものか。
15. 幼少の頃から土に親しむこと、小学校から農業の大切さを教えることが大切。
16. ガーデニングブームで、庭で野菜を栽培している方も多いようだ。そうした方々を少しずつ増やして行って、農業の楽しさを地道に広めて行ってはどうか。
17. 農家側の建て前では無く、本音での意見を聞き出し、それを解消するのが良いと思うが、このボランティア案は、そういった経緯を踏んでいるのだろうか。行政側と農家という関係で無い話し合いを持つことも、今までに無い考え方が出てきたり、考え方の行き違いが見えたりすることもあるように思う。
18. 中山間地専業農家への国又は地方自治体による一定の収入の保障により、農業で生計をたてることを可能にする。借地による大規模化を可能にする。個人でも法人でも。
19. スーパーなどで見かける八王子生産物コーナーをもっと積極的に設け、市民も他県の物より、新鮮な市内の農産物を買うようにアピールしてほしい。
20. 農業は大変な仕事というイメージが強いと思われるので、農協の魅力を広めることが大切。税金や年金、健康保険等を安くする等すればいいのでは。
21. 市内で野菜等をつくる人の数を増やすこと。近場に菜園があればこしたことはないのだが、やはり八王子の市民農園は交通、面積、契約期間、農地そのもののインフラなど、いろんな意味で不便である。かといって、市の農林課の方からは、「農家をご紹介頂く」という話も当時頂いたが、平時はサラリーマンなので制約も多く、迷惑をかけそうだったので遠慮してしまった。既存農家の活性化として、農家の支援をすることもできることの一つかと思うが、自分の手の届く範囲に絞って、しがらみなく好きなように（例えば「失敗しても笑って済ませられる」ように）土を触りたいという人は、団塊世代の退職時期を考えると、これから増えてくるはずである。ただ、今農地を市内に持っている家であっても、相続時期には現実的には処分するしか選択がないと思う。第三者の出資を仰いで、ある程度の規模を買い上げ、または、長期借り上げて、もう少し規模の大きく、市外県外からも人を集めるための市民農園として定着させる構図が描ければ、と常々考えてはいるのだが、経営が成り立つ図式にするには、資本や法的整備など、市側も支援できることがたくさんあると思う。

八王子市民に対して提供するサービスの一つとしてこういった話題を考えているなら、東京都下の市町村と比べるだけでなく、地理的な位置から考えて、神奈川や山梨方面を視野に入れ、施策を考えたほうが良いと思う。山梨まで援農に行かれてい

る方もいる。この手の作業をしたい人が、八王子に住んでいたとして、東京都の他の市町村に足を運んでいることは少ないと思う。

- 2 2. 農業は楽しいものだということを、もっとアピールするといいと思う。実際、幼稚園選びでも、自然と触れあう機会が多いところが人気のようなのである。普段サラリーマン家庭ではなかなか土に触れたりする機会がないので、幼稚園や学校で近くの農家の方にお話を伺ったり、実際にボランティアで農作業のお手伝いをしたりする機会があればいいと思う。

また、農薬の知識はあまりないのだが、できればあまり農薬が使われていないものを食べたいと思う。とはいえ、作業がとても大変だとも伺う。ボランティアによってその手間が省け、かつ、ボランティアをした人も安全な野菜が食べられたらとてもいいと思う。

その他、スーパー等でも見かけるが、生産者がわかる包装をされていたりすると、なんとなく安心感がある（顔写真が載っていたり、紹介があったり）。誰が作ったのか、誰が買ったのかわからないより、お互いどんな人が作って、どんな人に買われていったのかわかるとより親しみが生まれるのではないだろうか。大事に食べようという気持ちも。今はスローフードや手作りのものに暖かみや安らぎを求める人が多いと思うので、生きている農産物を扱う仕事はとてもいいと思う。ブームで終わってはいけないが、カリスマ農家がでてきたらやってみようと思う若者が増えるかもしれない。

- 2 3. フリーターや学生にも声がけをしてみるのもよいかも。また、家族で農業体験の機会をもちたいと考えている人も少なからずいると思う。

確実に後継者を育てるためにがんばるとなると怖くて近づけないが、経験できる間口を広げることで興味を持ってもらえるのではないだろうか。八王子には特産品がないと先日の説明会で聞いた。全般に作っているのは、都市近郊特有の農業であるとも聞いた。価格の低迷は、ブランドがないから仕方がないのではないだろうか。良いものを少々高くても手に入れたいと考える消費者も増えてきているように思う。スーパーやデパートでも有機栽培コーナーなどは結構目立つ。何かこれ！という八王子特産のものが一つでもあればいいと思う。難しいことだろうか。逆に、八王子になら何でもあるぞ！と大量に消費者に売り込んでみるなど。

- 2 4. まず、市として農業の活性化の必要性を考えるべきだと思う。農業を継続することを目的としてしまうと論点が違うように思う。

- 2 5. 核家族化の中で、農業は世襲制の意味が現在でも残っている感じがする。八王子市はそれでも、東京都の中ではまだ農業が活発な地域であると思う。私が住んでいる館町周辺は、水田や田畑が近くにある。

しかし、子どもたちはあまり関心がないように感じる。やはり、畑で働く人は皆高齢者の方たちばかりである。近隣のスーパーでは、小比企町の若いご夫婦が作った野菜が紹介されているが、地元産の商品に対しても消費者は興味がないのではないだろうか。これからは作づけ面積も縮小化し、ますます農業の衰退が進むものと考えられる。なかなか難しい問題であるが、やはり、子どもたちに興味を持たせるこ

とを何か考える必要があるのではないだろうか。農協や一般企業（食品、流通）とタイアップした企画の実施等検討できることはあるのではないだろうか。

ちなみに、私が勤め先の大学生採用面接官を行った際に、ある学生がこのようなことを言っていた。ゼミ活動で新潟の農村を訪れた際に、あまりにも高齢化が進んでおり、ゼミとして数年にわたりボランティア活動を行い、その成果が認められ、大学とその地域で正式な協定を結ぶことができた。多くの大学をかかえる八王子市であれば、このようなことも実現可能ではないだろうか。

26. まずは「体験」で、できるだけたくさんの人に参加してもらって農業の大変さ、良さを知ってもらうこと。若い人に農業を理解してもらうこと。
27. 子どもたちに実際に土にさわって、何かを育てそれを食する。その一過程をできるような時間、及びチャンスがたくさん作ると良いのではと思う。
28. ニートのフォーラムで、ニートの人たちが以外にも農業に興味があることがわかった。NPO団体を通じて、ニートの人たちに体験させて興味をもった人たちにやってもらえれば若い人も増えると思う。社会復帰の場なので、人件費がかからないし、野菜が低迷していても大丈夫なのでは。
29. 幼少の頃から農業に携われる環境をつくる。学校の授業に、農作業体験を取り入れると良いと思う。広報で農業のボランティア教室の案内などを取り入れたら参加者が増え、将来兼業で農業をしたいという人もでてくると思う。
30. 何故、農業の後継者が少ないのかに尽きる。若者に魅力がないのは何故か。後継者の増加対策がないままに、低価格の輸入にのみ頼りきっている現状では無策としか言いようがない。現状の個人農業ではなく、株式会社などの協同農業の設立も検討の価値があると思う。
31. ・手伝えることへの報酬・酪農科の学生の研修受け入れ・パートを雇う・農業希望者に土地販売・観光事業（体験宿泊ツアーなど）とする。
・食育につながるので、都心の小中学生を体験学習や、小さな修学旅行のように寝泊まりを農家や公民館などにさせて、2・3日農業に従事させる。
・卸業者の仲介料をうかせるため市場出しをせず、道の駅や市民、市町村で車の巡回販売をする。
32. 幼稚園や小中学校など、若年層とその家族などを中心に農業体験をする機会を提供し、理解を深めてもらう。
33. 八王子ならではの、特産品開発を考えるしかないと思う。
34. 長年働いて仕事をリタイアされても、まだまだ元気で余力があり、仕事とは別の生きがい求めている人が多くなったように思う。また、健康に気遣い、食物も身体にいいものを意識する現代社会で、自分たちが食べていく物は、可能なら自分で作りたいという人も少なくないのではないだろうか。そのような方々に畑を提供するのはどうだろうか。さらに、介護老人保健施設や老人ホーム、グループホームなどの高齢者施設と契約し、高齢者の方々に農作業をしていただくことによって、健康づくり、生きがいにつながっていければ、さらに農業だけでなく高齢化社会も活性化するのはと考える。

35. 日本の農業が縮小衰退していることは大きな問題であり、改めて市民に農業の重要性を認識してもらうことが、大切なことだ。
- ここまで農業が縮小したことは、農業経営が厳しいためであり、インプット（投下労力）に対しアウトプット（効果・収入）が小さいからである。今の状況は、放っておけば、ますます農家・農地の減少が進んで行く。まず農業経営が安定するためには、どうしたら良いかを考えることが先決だ。当面次のようなことが考えられる。
- (1) 農業活性化市民会議（仮称）の設置
- 市農林課、農業委員、農業経営者、学識経験者、経営コンサルタント、一般市民による市民会議を設置、市の農業のあり方、問題点、対策等を検討し具体的な活性化案を作成し、市長、市議会に提言する。
- (2) 八王子市農業ファンド（仮称）の設置
- 市、企業、市民から出資を募り、第三セクターとしての農業ファンド（互助組織）を立ち上げる。農産物価格が下落したときは大量に買入れて価格の安定を計る。買入れたものは冷凍保存して不作のときに出荷する。又は加工してジュースやジャム等として販売する。収益が出たときは一部出資者に配当し、残りは基金に積立てる。ファンドの運営は農業活性化市民会議のメンバーが担当する。
- (3) 農業に対する参加意識を高める
- ア 市内の公立小中学校の授業に月1時間位「農業の時間」を設けて、関係者が話をする。年1～2回農業体験の授業を行う。
- イ 援農ボランティア
- ウ 「八王子市農業フェスティバル」を開催する。
36. (1) 農作物を作る、育てる喜びを小学校の時から体験教室で学び、種をまき育つ状態を見て、又、収穫するまでの工程を学べば食物の大切さが培われる。子どもの頃から農業の意味を教育の中に取り入れる。
- (2) 現在、家庭菜園が多いということは、定年後の人たちをターゲットにすれば援農ボランティアはかなり拡大出来そうな気がする。
37. 農地を集約する。交換する。水路、農道を整備しトラクターが入れるようにする。原産地がわかり易い有機農法を行い、農薬を極力さける。農業の種類別に集約できないか。
38. (1) 専業が成り立つには大規模化、機械化が必要。
- (2) 定年帰農に近いやり方を含めて農地保全を図るには借用制限のある農地法の改正も必要。
39. 高品質の野菜や果物は、海外に輸出されて好評と聞く。八王子でもそのような産物はないだろうか。ニートと呼ばれる人たちに農業を経験する機会を与え、就農に導けないだろうか。
40. 農業に関心を持っている者は決して少なくないと思う。また、農業従事者の高齢化等に伴い、農地が遊休地になっている土地も多いのではないだろうか。
- 農業を残す又は活性化するためには、農業従事者を増やす必要がある。市及びJAが中心となって次のようにおこなったらどうか。

- (1) 農業希望者を募集・養成・指導。
 - (2) 農地（遊休地）を農家から借用。
 - (3) (1) の者に貸出。
- 4 1. 産品などは、八王子の立地条件、気候に合わせたものを考える。大学もたくさんあるので、農業関係の学部などあったら、学生、地元農家など、知恵を出し合い、名産物を生み出し、商品化、町おこししたら、活気がでてくるのではないだろうか。八王子も、土地がいっぱい残っているのだから、有効に使ってほしい。私の住む鍵水地区もそうである。マンション、家ばかりで、周辺は荒地ばかり。一戸建てにしても、大手不動産会社が買い占め単なる分譲地です。店もなく、より所がなく、個々のマンション、団地、一戸建ての住人でしか集わないようで横のつながりがない。これといった名産品を生み出し、例えば、桃・ぶどうだったら、名産アイスクリーム屋や、ケーキ、カフェなど、老若男女が集える場所があればいいと思う。農業＝高齢者、というイメージがあるのでは。
- また、小学校では、個々の敷地内に子どもたちが栽培中の植物が、授業の一部としてやっているようなので、校庭と言う狭い敷地の中より、広々とした所で生きた教育をやって行くのもいいのではないだろうか。例えば、芋を育てて収穫とか。子どもが幼稚園の時、芋掘りに行ったものだった。
- 4 2. 小学生等を対象にした「社会科見学」を、農業（農家たちや作物）との触れ合いとして1日体験させ、農業の現状を把握してもらい、作物を作る大変さなどを理解してもらおう。また、夏休みは親子で農業体験出来るよう（この場合も、参加者が交通費を負担してもらおう）工夫する。楽しい思い出を作るとともに貴重な体験も出来る。これらを定期的に行うことで、農家の作業負担が少し軽くなり、おみやげに多少の農作物をあげても利益は充分見込めると思う。
- 4 3. 私の祖父母が農業で生計をたてていた。収入面や、年金、保険制度などをみると老後のことを考え、サラリーマンの方が良い条件が揃っているという感想を持つ。金銭面で何か更なる優遇がないと、後継者問題は難しいと思った。
- 4 4. ボランティアというと、少しかたいイメージがあると思う。産業をもっと身近に感じとることができる農業体験のような、手軽に参加できるサークルみたいなものがあると良いと思う。あまり制約をつけずに、自由に参加できるものがよいのでは。興味はあるが、身近に参加できる場がないという人は多いと思う。地場でとれたものをなるべく食べようという意識改革も、広報は到底してアピールした方がよいのでは。私は今まで八王子の農業について全く知らなかった。
- 4 5. 場所の確保、提供。農業やっている方たちとの交流。
- 4 6. 最近農協などで試みられている生産者の顔が見える販売方法は、とても効果的だと思う。
- 4 7. 今、社会現象でニートが問題になっている。こういう方たちに、社会貢献に働く喜び、収穫の喜びを感じさせられたらとても良いのだが。
- 4 8. 援農ボランティアの件は、少々問題があるかと思われる。
- (1) ボランティアする側

ボランティアといっても恐らく、従事する分の見返りは必要だと思う。
ただ「健康に良い」、「新鮮な野菜を提供してもらえる」だけの理由で参加する方は
そう多くないと思う。2007年問題もあることから、まだまだ働けるというシル
バー世代が増えるこれからの時代に、これらの方々を八王子市の臨時職員として採
用し、繁忙期だけ農作業に従事して頂くという方法は如何だろうか。
この方法だと、ひょっとすれば人的確保は困難ではないと思われる。
また、地域の幼稚園児、小学生に農業の大切さを理解してもらうために授業の一環
として取り組んでみることは出来ないだろうか。

(2) ボランティアを受ける側

農家の方々にとって、自分たちが守ってきた土地に他人を入れるということは、心
情的にあまり良いものではないのではと思っている。

実際、農家の方々に聞いた訳ではないので杞憂かと思うが、この問題は大きいと思
う。また、農家の方々にとって、本当にサポートを希望する期間はそれほど無い様
な気がする。

耕転、植え付け、収穫と限られた期間が必要かもしれないが、その他は自分たちで
出来るからボランティアは要らないと思うかもしれない。

これらのことから、ボランティアする側と受ける側の温度差が生じる可能性が高い
と思うので、両者のすりあわせをすることが本当に大事なことだと思う。

別の意見だが、若い世代で農業に従事したいと考えている人たちに休耕地を開放す
ることは出来ないだろうか。若い世代で農業を本業にしたいと考えている人たちも
少なからずいるかと思う。ただ、経験、技量等が不十分なため、安定的な収入を確
保することは困難だと思うし、大規模な農地を確保する資金も持っていないと思う。
次の世代に農地を残していくためにも、若い世代に「農業は魅力ある仕事」である
と訴え、サポートする体制を作っていければよいと思う。

もっと八王子産の野菜等を宣伝しても良いのではないか。「高月清流米」も初めて聞
いた。どこに行けば買えるのだろうか。市民の大半は売っている場所を知らないと思
う。広報等でもっとアピールすることは問題なのだろうか。

49. 日本の農業の技術は大変すぐれているが、人材不足なのはどうしてなのか本格的に
調査が必要である。カロリーベースで6割を輸入品に頼っている現状の深刻さをも
っと広報するべきである。
50. 株式会社組織にし、生産性を高め、農業を商業化して海外（中国など）に競争に勝
てるようにする。
51. あまりよくわからないが、今の社会では若い世代がそういう面倒くさい採算性がな
いことに興味が無いことだと思う。日本で作らなくても輸入に頼っている現状があ
るので、甘えてしまうのではないかと思う。
52. 貸農園の有料は反対しないが、1単位をもう少し広めで、料金を2,000円/年
程度に下げ借りをやすくしてほしい。増加させて（提供を多くして）1名に2つま
までとか、数量面積をふやす。また、駐車場と水場を設けてほしい。
53. 市民農園に提供し、利用期間は最低5年位。現在の2年間の限度では、農土の手入

れで収穫が殆んど期待できない。

54. 「八王子ゆめおりプラン」と同じ「八王子農業のビジョン」を描くことが先決だと考える。農業、従事者、農協職員、市職員、有識者、市民の若手（20～40才）を中心とした「ビジョン策定委員会」を設け、一年がかりで、八王子農業のビジョン（進みたい方向＝夢）を描くことが先決だと考える。活性化の基本となる設計図がないと、力を結集することができない。
55. 市内で産出された農産物は、優先的に市内で販売されるよう流通システムを作り、価格の維持を図って農業従事者の保持・増大を実現する。
56. 私の周りには畑を借りて野菜作りをしている方が複数いる。収穫された野菜は、無農薬で生き生きとしており、市販の物と比較の対象になっている。興味や関心がある方は少なからずともいるので、ボランティア活動にも参加してくれるのではないかと思う。
また、教育機関（保・幼・小・中）でも、実習として積極的に取り入れると良いと思う。収穫した物も自分たちだけが手にするのではなく、販売にも携ることで流通のしくみを学び、農家の方の話を聞くことなども地域を知る上で有効かと思う。価格低迷や高齢化問題への対処法は具体的に思い浮かばない。
57. 地元野菜（平成15年の生産額17億円）は、地元で消費する対策を。（学校給食、医療施設等大口需要先との契約）
58. 市場が近いので何でも作るとのことだが、八王子ならではのネームバリュー野菜を提案する。立川のウドがあるので、八王子にあった野菜果物を研究したいと思う。八王子ラーメンもチラシを作り、図書館で受け取ることができるので、やはり八王子と言うブランドが必要である。それが活性化になると思う。このボランティアも、農業の方への協力で農家の方がお金にならなければならないので、あくまでも協力と言う観点でと思う。
59. 農家単体での経営は、確かに厳しい。企業と契約してやるのも手だ。その場合は、生産側が弱い立場になるのを避けるように、市がサポートする必要がある。
上記のボランティア制度はよいかと思うが、参加する側は時間に制約がある場合が多いので、参加者が無責任な状態にならないために、交代制や作業限定などシステムチックな運営が必要だ。
60. 農業製品のブランド化という方法が挙げられる。これは、エルメスやシャネルのような架空の価値を価格に転嫁し高付加価値商品にするのではなく、「八王子産」という生産地をブランド化する。これは値段として価値をつけるのではなく、「八王子」という市名自体を一つのブランドとして考えるものである。市名をブランド化することによって、自分の近くの場所で作られているのだという親近感をもたらし、そのことによって農業への親近感も増すのではないかと考える。言うまでもなく、八王子という価値を高めていくには市政の向上や、住民の様々な取り組み、経済の活性化など対策を講ずることも併せて重要である。八王子から農業のイメージを変えるという強い意気込みで取り組むことで、農業の価値も八王子の価値も上がるので

はないか。マスコミに取り上げられるくらいの画期的なものが求められていると考える。

それ以外では、農業の株式会社化の推進が考えられる。株式会社化によって上場をすれば一定程度の資金が集まり、それによって広報や農地の拡大など様々な農業に対する施策を民間企業の方法で広げることが出来る。農産品の販売のためには様々な事業を展開するであろうから、農業に対する注目度等も変化するのでないのではないかと思う。

- 6 1. 市で一般の方に、畑や田を貸し出しされているようだ。一般の農家の方も、貸し出しを行い（有料で）栽培技術等を教え、農作業に関わりを持たせ、まず興味を持ってもらうというのはどうだろうか。やってみたい人は、たくさんいると思う。
- 6 2. (1) 農家に後継者が絶えるなら、関心を持つ人を広く一般から公募し、研修を経て従事して貰う。
(2) 小・中・高の授業の中に農作業の課目を入れる。
(3) 農家の青年たちの集団お見合い作戦計画。
- 6 3. 若い方々が農業に興味を持ってもらえれば、新種の開発や新しい発想で農業を活性化できると思うのだが、農業はつらい、しんどいのイメージがあり難しいと思う。農業＝生きているものを育てることの楽しさを経験し、農業のイメージを変えることができれば良いと思う。また、たくさんの輸入野菜が安価で売られている。国産品の方が安全と思いつつ、つつい安さにひかれ買ってしまいう人が多いと思う。一方、無人野菜販売店や直売店は、価格が安いので売れ行きも良いようだ。国産品を安価で買えれば輸入品を買う必要がなくなるので、このようなお店が増えれば良いと思うのだが。スーパー側にとっては痛手になり、難しい問題のようだ。神奈川県城山町にある店のよう、スーパー内に地元の野菜を売るコーナーがあれば、両方が利益を得られるのではないかと思う。
- 6 4. 正直のところ、このモニターに携ってはじめて、農業の現状の深刻さを考えた。「援農ボランティア」制度に期待するのみで名案がうかばない。
- 6 5. 休日を利用して地域の公園などで野菜の即売をする。比較的広域の農家に参加してもらい、大規模のものにして市内全域から来てもらう。市街地の人や若者があまり農業に触れていないので、そのような条件をつけ、直接農業を体験できるツアーを組む。駅からバスで送迎する、昼食付などのサービスを盛り込んだらどうか。
- 6 6. 八王子市には、「学園都市」という一面もある。すなわち、若い労働力・未来を担う力が、たくさんある。小・中学校はもちろん、高校・大学にも援農ボランティアの輪を広げてはどうだろうか。また、「いちよう祭り」の出店で、八王子産の野菜を使ってもらい、八王子ブランドをアピールするのもよいと思う。
- 6 7. ある程度の研修期間を経て、農家の方の監督の下で、農家の方に代わりに『専業農家』をやってくれる人を、市内外を問わず広く募集する。契約が個人では難しいのであれば、組合を作り共同で契約し、利益を給与として農家側から支払うというような企業としての方向付けはどうだろうか。また、人手が欲しい時やその他必要に応じて収穫物の現物支給などの報酬も視野に入れ、広報活動を活性化してみても

うだろうか。

68. 八王子市産の農産物愛用キャンペーン。まずは、市役所が率先して、八王子市産品を購入する運動を始められたら如何だろうか。食料品はほとんど地元産にて賄え、また、美味しいものがたくさんある。
69. 個人ではなく、法人方式で事業として行ったほうがよいと思う。
70. 地場産（八王子産）であることの安全性などをPRしていく（どんな物を作って食べ方など）。援農をやりたい人をHPや広報などで広く募る。援農をすることで、お年寄りと若い人との間で和などが生まれるかもしれない。大学や高校にチラシを掲示する。駅、放射線通りの辺りでPRする。
71. 3K（キツイ・くさい・汚い）と、できるだけ無縁に出来るようにしたら援農ボランティアの方が集まるのでは。
72. 日本の農産物は、手がかかっている分おいしいし、農薬等も外国産より安全なのでその点をPRすれば、安い外国産に負けないと思う。私は産地を見て、多少高くても国産の物を選んでる。
73. 高齢化社会が課題で大変のようである。健康でないと農作業は無理。だから、若い人の力をと考えるが、楽しく時間の利用の制限ないなどを含め、ゆとりをもって活性化できるように、また、収入を含め厳しいが、子・孫が引き継げる環境を祈るばかりである。
74. 援農ボランティアを、“農業体験”という形で市内にかかわらず近郊からも募集して、若い人や子どもたちに体験をしてもらい、まずは興味を持ってもらう。
75. 物を作り育て収穫する喜びは、格別である。何でもお金さえあれば手に入る世の中だが、若い人たちにもその喜びを知ってもらいたい。中学生の授業などで、農業体験を取り入れたりして興味をもってもらえればよいと思う。
76. 家庭菜園普及運動。

農業に興味をもつためには、実際に自分が農作物を土から作るところから収穫まで一貫して行うことにより、その楽しみ困難さを知る必要がある。また、最初の触れるきっかけは、できるだけ手軽のほうが望ましい。自宅のベランダや、庭でできるようなことが望ましいと考える。まずは家庭菜園をする人口を増やし、農業に興味をもってもらおうということはどうだろうか。

実際に内容としては、たとえば家庭菜園に興味のある人を集め、会員組織を作る。プロの農家がメールや広報を通じて、土の作り方や、種の植え方、おいしい農作物をつくるためにちょっとした工夫、農作物をからさないための工夫、会員からの疑問に対する答えなどを、定期的（月1，2回とか）に、その農作物の成長過程にあわせて情報を送るようにする。

このようなものがあれば、プロが教えてくれるという安心感と、定期的に情報がくるし、家庭菜園を継続しやすくなるので、農業の楽しさを気軽に体験できると考える。農業の楽しさを知ることができれば、もっと広いところで農作物をつくってみたいと考える人がでてくるので、その人を支援するような仕組みがあると望ましい。また、小さいころから農業を体験させるという意味で、たとえば不登校児童を集め

- て、農業を体験させる。
77. 小学校の生活科の授業等で、農作業を体験させ、また収穫した野菜を使って調理実習をし、小さいうちから私たちの食生活の大切さ、農業を身近に感じさせるなどの教育が絶対に必要だと思う。また、地域ごとの無人野菜ボックスの設置なども良いと思う。
 78. 農業人口の高齢化などに対処するため、企業化を容易にするなど弾力性を持たせた農業政策をとる必要がある。
 79. 農産物販売所は、新鮮な野菜を求めて賑わっている。あきる野ファーマーズは、観光バスも止まるとか。道の駅などでは、地場の農産物が並んでいて寄るのが楽しい。八王子でも、市が援農の1つのケースとして、小規模な販売所をあちこちに作ったらどうか。作った農作物が確実に売れ、地元で消費されれば供給者と消費者、共にハッピーではないだろうか。
 80. 多くの消費者の立場として、地元の安全な新鮮なものを期待している。そのパイプが（交流会、収穫祭など）できれば、生産者にとっても活性化となる力を得られると思う。仕事に作る喜びがなければ担い手はできないと思う。（近くにある農家の1000円コーナーの野菜は、主婦の間でも大変評価を得ている現実がある。）
 81. (1) グループ（集団）農業化して経費を大幅に削減する。
(2) ニートを集めて、働く意欲を養い鍛える。
(3) 老人クラブに働きかけて手伝って貰う。（謝礼程度は出す）
(4) 小学校高学年や中学生を動員する。例えば春休み、夏休み、冬休みを有効に使って青少年の課外授業とする。
 82. 八王子市だけの問題ではなく、東京都も同じ悩みを持っているし、国も又似たような問題がある。援農ボランティア制度は、(財団) 東京都農林水産振興財団が、既に、6～7年前から推進し、実施している市もあるので（あまり長続きしない様子）連携をとりながら、八王子に適した方策を展開してほしい。
 83. 我家には7・4・1才の子どもが3人いる。普段当たり前のように口にしている野菜が、どのように作られているのか全く知る機会がない。以前、八王子市の「さつまいも作り体験」に参加して、さつまいもが出来る過程を知ることが出来て、子どもたちも楽しかったようだ。未来を担う子どもたちに、農業の楽しさを教える機会を作ることが大切だと思う。
 84. 酪農業は、後継者問題が一番大きいのではないだろうか。簡単な作業であれば、興味のある人を募って、ボランティアとかお手伝い出来るようなシステムがあればいいと思う。特に、子どもがいる世帯に対して関心を持ってもらえるような企画があれば、その子どもたちが将来の担い手として成長することが期待できると思う。
 85. 補助金を廃止する。
 86. 担い手の高齢化が進んでいるのは、後継者がいない・育たない、という部分に問題があると思うが、若い世代が農業に興味を持ち、「やってみたい」という気持ちになれるように、中高校生の「総合」の時間を利用し、職場体験ということで農作業を

体験し理解を深めるための学習会を行うとよいのではないか。

「援農ボランティア」の活用もよい方法だと思うが、「自由意志での参加」ということで、純粋なボランティアにすると、「責任感」が薄れなかなか定着しないのでは、と思う。

87. 援農ボランティアには大賛成だが、高齢者の手助けという趣旨ではなく、子ども（小・中学生）の教育の一環として取り組むようにしてはどうだろうか。ゆとり教育で授業数も減っていることから理科などで、栽培への機会が失われているのではないだろうか。私は教育の現状を把握していないが、未成年および若者は、食事の際に「いただきます」と言わないことが多いと思う。自然の恵みに感謝し、また命の尊さを知り、そして、それを支える農家に感謝する気持ちを持つことも創設の目的とした方が良く思う。小学校に案内を配布し、親がそれを見る、もしくはPTAを主体に取り組んで参加を促すことが出来ればボランティア数は増えると思う。

テーマ2

ごみ減量意識の変化と発生抑制について

環境部 ごみ減量対策課

ごみ減量と資源化の推進に向けた取り組みとして、昨年10月からごみの有料化を実施し、併せて、戸別収集及び資源物回収の拡充を実施したところです。この3つの取り組みに対する市民の皆様のご協力により、可燃ごみと不燃ごみは合計で32.4%の減量、逆に、資源物回収量は、79.9%の増加という大きな成果を得ることができました。この成果を持続し、更なるごみ減量を実現するためには、市民の皆様にも、昨年10月のごみ有料化実施当時のごみ減量意識をいつまでも持ち続けていただくことが不可欠です。

そこで、今後の施策展開の参考とするため、ごみ減量意識と発生抑制についてお伺いします。

問1. あなたは、昨年10月のごみ有料化実施前と後では、ごみの減量や資源化の推進に対する意識に変化はありましたか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
大いに意識するようになった	62.1	57.5	65.5
意識するようになった	31.6	32.5	30.9
多少意識するようになったが、あまり変わらない	4.2	7.5	1.8
変わらない	2.1	2.5	1.8

◆ごみ有料化実施前と後では、ごみの減量や資源化の推進に対する意識に変化はあったかを聞いたところ、「大いに意識するようになった」が62.1%と6割を超えて最も高く、これに「意識するようになった」(31.6%)を合算すると、『意識するようになった』は93.7%と9割を超えている。

問2. あなたは、昨年10月時点のごみ減量意識を、今も変わらずに持ち続けていますか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
まったく変わりにく持ち続けている	52.6	50.0	54.5
ほとんど変わりにく持ち続けている	42.1	40.0	43.6
少し減量意識が薄らいでいる	4.2	7.5	1.8
かなり減量意識が薄らいでいる	1.1	2.5	0.0

◆昨年10月時点のごみ減量意識を、今も変わらずに持ちつづけているか聞いたところ、「まったく変わりなく持ち続けている」が52.6%と最も高く、「ほとんど変わりなく持ち続けている」(42.1%)を合算すると、『変わりなく持ち続けている』は94.7%と9割を超えている。

問3. あなたのご家庭では、ごみの分別やごみ出しが、家族の協力のもとに行われていますか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メー(%)
協力的に行われている	48.4	45.0	50.9
とても協力的に行われている	38.9	42.5	36.4
あまり協力的に行われていない	12.6	12.5	12.7
協力的に行われていない	0.0	0.0	0.0

◆家庭でごみの分別やごみ出しが、家族の協力のもとに行われているか聞いたところ、「協力的に行われている」が48.4%、「とても協力的に行われている」が38.9%と高かった。一方、「あまり協力的に行われていない」は12.6%であった。

問4. あなたのご家庭ではごみ出しをするときに、主にどのサイズの指定収集袋を使っていますか。(可燃ごみ、不燃ごみの別に、○は1つずつ)

(可燃ごみ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メー(%)
10リットル (小 袋)	36.8	45.0	30.9
20リットル (中 袋)	33.7	25.0	40.0
5リットル (ミニ袋)	20.0	25.0	16.4
40リットル (大 袋)	9.5	5.0	12.7

(不燃ごみ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メー(%)
20リットル (中 袋)	43.2	50.0	38.2
40リットル (大 袋)	29.5	20.0	36.4
10リットル (小 袋)	27.4	30.0	25.5

◆ごみ出しをするときに使っている指定収集袋のサイズを聞いたところ、可燃ごみでは、「10リットル(小袋)」が36.8%、「20リットル(中袋)」が33.7%と3割を超えている。不燃ごみでは、「20リットル(中袋)」が43.2%と最も高かった。また、「40リットル(大袋)」は、可燃ごみでは9.5%だったが不燃ごみでは29.5%と高かった。

問5. あなたは、プラスチックの回収品目やペットボトルの出し方など、資源物の出し方をきちんと理解していると思いますか。(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
だいたい理解している	51.6	50.0	52.7
よく理解している	42.1	45.0	40.0
あまり理解していない	6.3	5.0	7.3
理解していない	0.0	0.0	0.0

◆プラスチックの回収品目やペットボトルの出し方など、資源物の出し方の理解度を聞いたところ、「だいたい理解している」が51.6%と半数を超えた。また、「よく理解している」も42.1%となり、両方合わせた「理解している」が93.7%と9割を超えている。

その他

1. プラの出し方と処理実感を解決すべき。

問6. あなたが普段の生活の中で、ごみの減量や資源化の推進のために心がけていることは何ですか。(○はいくつでも)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
市の資源物回収や地域の集団回収などに出している	68.4	80.0	60.0
必要以上の包装は断っている	62.1	65.0	60.0
買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている	51.6	57.5	47.3
ものを大切に長く使うようにしている	49.5	62.5	40.0
ペットボトル、トレーなどの店頭回収を利用している	47.4	67.5	32.7
再生紙のトイレットペーパーなど再生品を購入するようにしている	41.1	45.0	38.2
使い捨て容器や商品はなるべく買わないようにしている	24.2	25.0	23.6
リサイクルショップやフリーマーケットを利用している	22.1	22.5	21.8
ビール瓶や一升瓶などは酒販売店にもどすようにしている	20.0	25.0	16.4
エコマークなど環境に配慮した商品を利用するようにしている	17.9	22.5	14.5
生ごみ処理機を使っている	6.3	2.5	9.1
その他	11.6	15.0	9.1
特にない	0.0	0.0	0.0

◆普段の生活の中で、ごみの減量や資源化のために心がけていることを聞いたところ、「市の資源物回収や地域の集団回収などに出している」が68.4%、「必要以上の包装は断っている」が62.1%と6割を超え高かった。また、「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」も51.6%と半数を超えている。

その他

1. 生ごみ、雑草等はコンポストで処理。
2. 必要な物以外買わないようにする。
3. 余計な物は買わない。
4. 食物を残さない。
5. ごみ減量のため、酵素を買って来て庭（花壇等）に埋めている。
6. メンテナンスに心掛けている。
7. 壊れたものはなるべく自分で修理して使う。
8. 自作のコンポストに家庭の生ごみや腐葉土を混ぜ、堆肥を作っている。
9. 不燃物のごみはかなりかさばるので、なるべく小さいビニール（ごみの一部）をみつけて詰め込み、圧縮して出すようにしている。
10. 食材のくずは肥料として家庭菜園で利用している。

問7. 市ではレジ袋の削減や簡易包装等を推進し、ごみの発生抑制に取り組むスーパーなどの小売店を『環境にやさしいお店』として認定し、市民に広くPRする制度を発足する予定です。あなたは、このような『環境にやさしいお店』を利用したいと思いますか。（○は1つだけ）

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
利用したい	48.4	55.0	43.6
積極的に利用したい	45.3	40.0	49.1
あまり利用したいと思わない	3.2	5.0	1.8
利用したいと思わない	2.1	0.0	3.6
無回答	1.1	0.0	1.8

◆『環境にやさしいお店』を利用したいと思うか聞いたところ、「利用したい」が48.4%と最も高く、「積極的に利用したい」が45.3%と続いた。一方、「利用したいと思わない」は2.1%だった。

問8. 月に1回程度『ノーレジ袋デー』として、レジ袋を受け取らない運動を市内で開催した場合、あなたはこの運動に参加したいと思いますか。（○は1つだけ）

	(n=88)	(n=48)	(n=40)
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
積極的に参加したい	46.3	60.0	36.4
できるだけ参加したい	38.9	25.0	49.1
あまり参加したいと思わない	9.5	10.0	9.1
参加したいと思わない	5.3	5.0	5.5

◆レジ袋を受け取らない運動を市内で展開した場合、この運動に参加したいと思うか聞いたところ、「積極的に参加したい」が46.3%と最も高く、「できるだけ参加したい」も38.9%だった。一方、「参加したいと思わない」は5.3%だった。

問9. スーパーなど小売店で商品の包装について、あなたはどのようにお考えですか。
(○は1つだけ)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
ものによっては過剰包装のものがあるので、できるだけ減らした方がよい	53.7	50.0	56.4
過剰包装のものが多く、積極的に減らすべきである	41.1	42.5	40.0
現状程度の包装は必要である	5.3	7.5	3.6

◆スーパーなど小売店で商品の包装について聞いたところ、「ものによっては過剰包装のものがあるので、できるだけ減らした方がよい」が53.7%と半数を超えている。また、「過剰包装のものが多く、積極的に減らすべきである」も、41.1%と高かった。

問10. ごみの減量や資源化の推進のために、事業者に対してどのようなことを望みますか。(○はいくつでも)

	(n=95)	(n=40)	(n=55)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
過剰包装をやめ、商品の包装を簡単なものにする	78.9	82.5	76.4
ごみやむだの出ない製品をつくることに力を入れる	66.3	62.5	69.1
製品が長く使えるよう修理や補修の体制を充実させる	65.3	72.5	60.0
事業者自ら資源回収に力を入れる	63.2	55.0	69.1
再生資源を利用した製品などを積極的につくる	58.9	55.0	61.8
その他	7.4	10.0	5.5
特になし	1.1	2.5	0.0

◆ごみの減量や資源化の推進のために、事業者に対してどのようなことを望むか聞いたところ、「過剰包装をやめ、商品の包装を簡単なものにする」が78.9%で最も高かった。「ごみやむだの出ない製品をつくることに力を入れる」「製品が長く使えるよう修理や補修の体制を充実させる」「事業者自ら資源回収に力を入れる」も6割を超え、高くなっている。

その他

1. 法改正で対応すべき。
2. 計り売りやバラ売りを増やす。
3. 価格の安いリサイクルグッズ等売る。
4. はかり売りを奨励したい。小売りが画一的である。東南アジアの小売りもいいのではないか。パック売りは無駄が多く、今の日本は何もかもやり過ぎと思う。自重した方が長続きする。息の永いスタイルを身につけた方がよい。
5. 修理・補修方法の公開、部品の適正販売、修理用具の貸し出しなど。
6. 消費者がもったいないという思想を持たせるように学校教育で教えるべき。

問 1 1. 今後、更なるごみ減量を実現するためにはどのようなこと（どんな施策）が必要だと思いますか。あなたの考えをご記入ください。（自由記入）

1. 有料化開始時より、燃えないごみが増えていると自覚している。原因は、がんばる気力が薄らいでいる。減量化したことでこれだけの利益があったとか、その利益分でこんな有効利用に転化したとか、もっとアピールするなど、細かく情報を流して欲しい。町内会での新聞リサイクルでは、今月は～円でしたと掲示板に載せる。こういう刺激が必要だと思う。また、地区ごとでの減量数値を広報紙に載せるのも一つの案。南大沢地区は先月比マイナス5%、下柚木地区はプラス5%等。目で知らされると行動力になると思う。
2. 八王子をはじめとし日本全国も、リサイクル大国ドイツのように、必然的にリサイクルなどが暗黙の了解のようにできるシステムに、1日も早くなってほしいと思っている。めんどくさいごみの仕分けをした後で、得したと完ぺきに喜べるような工夫をすれば、もっとリサイクルに市民も前向きになるのでは。ごみ分別を、めんどくさく感じさせない工夫がもっとできたら、もっとごみを減らせられるかもしれない。
3. ごみ処理場の現状や、ごみ処理に伴う環境汚染等を小学生の時から教え、中・高校生、大人に対しても常にPRし、無駄な消費を抑える様にすると良いと思う。また、企業に対しては新製品の開発だけでなく、良い製品を長く使える様、修理の義務化・部品の長期保存を促すと良いと思う。不燃ごみの5L（ミニ袋）があると一人家族等には良いという声を良く聞く。検討してほしい。
4. 個別住宅の収集（分別も含め）作業は、問題が出ないと思うが、集合住宅（独身者を含む）は問題も多く見受けるので、自治会を通して個人の意識を高める必要がある。自治会役員に市の方から問題提起すべき。
5. 大きな飲食店や事業所等の協力。一般家庭などに比べ、意識が薄いと思う。
6. 昔はお豆腐を買うのでも、自分の家から容器を持っていった。「ただで貰えるなら何でも貰う」感が強いから、スーパーのレジ袋やデパートの包装紙などを断らないのだと思う。必要ないものは使わない・使わせないようにするのが一番だと思う。
7. 行政がメーカー、販売業者を指導し過剰包装を抑制する。

8. 現在のプラスチック回収の種類を広げるべきである。レジ袋の有料化を推進する。
9. 新制度になって一番苦勞しているのは、清掃事業の労働者だと思う。分別収集を余り細分化すると、次第にいい加減になると思うので、「資源ごみ」集収日を少なくして欲しい。
10. 不燃ごみの量が大量であると痛切に感じている。これを減らすためには、大量に発生するプラスチックの回収を、資源ごみとして行う必要がある。再生困難なプラスチックについては、包装に使用しないよう法的措置を講じるべきである。
11. 1. ごみ袋が高すぎると思う。もう少し値段を下げしてほしい。こんなに高くしなくても、「ごみ減量意識」を持っている人は少なからずいるはずだ。
12. 2. ごみの区分を励行し、リサイクルショップ等積極的に利用する。
13. 3. 過剰包装が多いので、やめてほしい。包みは簡単に、又再生利用に力を入れてほしい。しかし、かえってコストが高くなるのではと心配もある。発泡スチロールの使用はやめて、昔のように竹の皮の利用を提案する。
14. 4. 大手スーパー等が行っているように、小売店も可能な限りボトル・缶・プラスチック皿等は、自己回収するよう努めるべきだと思う。
15. 5. (1) 現状では2週間ためて出しており、夏場は困るので、不燃ごみのごみ袋もミニ袋を作ってほしい。
(2) 資源ごみを一箇所に集め回収をしているが、アパート以外は、各戸で可燃・不燃同様に出すべきではないだろうか。まとめ出しをしているため、通りがかりのポイ捨てや、収集ごみ以外を出したりする。回収業者には、市の税金が払われており、回収資源が業者の収入にもなると思うのでいいと思う。また、日野市はこのように行っている。現在、業者が収集している缶（瓶かどちらか分かりません）の中に、資源ごみを運ぶためのビニール袋があると、そこら辺に捨てていくので、何とかしてほしい。白いビニールに入れて出してよいことになっているので、それも一緒に回収するべきではないだろうか。
16. 6. 市が中心となって、頻繁にリサイクルやフリーマーケットイベントを開催し、ごみを減らす機会を増やす。廃棄自転車など、修理をすれば再利用可能なものを、シルバー人材センターなどで修理し、市民に安く販売するなどの工夫をしてほしい。
17. 7. レジ袋を持参すると1ポイントずつたまり、20ポイントたまると100円の商品券に変わるシステムのスーパーがある。主婦にとってはやりがいのある運動だと思う。実際に私もそのことを知り、マイバックを持ち歩くようになった。個人経営では難しいかもしれないが、何らかの特典作戦は効果大だと思っている。ごみ袋の有料化に伴って、生ごみの量が我が家では減った。食べられるものは食べるという、これまた主婦魂だろうか。大根の皮やニンジンの皮できんぴらを作ったり、ほうれん草の付け根の赤い部分に栄養がつまっていると聞き、よく根元まで洗って食べたり。TVの節約料理番組を参考に、あれやこれやを考えて実践しているうちに面白くなってきた。そういったPR活動が、パンフレットや広報にたびたび載ると、なるほどなあと思ってくれる人もいると思う。
18. 8. 昔は当たり前だったのかも知れないが、量り売りのやり方を復活させるべきだと思う。

う。ただし、これには市政・メーカー・小売店・地域の理解が必要で、すべてを巻き込んでやる必要がある。昔のスタイルではあるのだが、車社会である今では、逆にこのやり方があっているのではないかと思う。(車で灯油を買いに行くのも、当たり前になっている)

19. 企業も消費者も、一緒に変わっていかないといけないと思う。
20. とにかく協働の原点として、情報の開示をするのが先決である。プラスチックは焼却していることを、市民に開示した上で協働すべきである。ゆめおりプランが憲法なら、職員は市の憲法を守ることが第一である。
21. 最初は、どうして八王子だけが(他市ももちろん実施してるが)有料になるのかと少し不満もあったが、現在は家族も意識が変わり協力してくれるようになり、良いことだと思えるようになった。なるべく詰め替えができる商品を買うようにしているが、商品によっては逆に、ボトル入りの方が安い物があったりする。これは企業に要請して改めてもらいたい。
22. (1) 買物袋持参を励行する様にする。
(2) レジ袋の有料化を実施する。
(3) 新聞紙やダンボール等、紐で縛るのは最低限にする。新聞紙は新聞袋に入れて出すのもよい様にする。
(4) プラスチックの分別をもっと分かり易くする。(プラ・マーク品等の扱い)
(5) 戸別収集も限度があると思う。係員が駆けずり廻るのは大変だ。5～6軒単位にまとめる様にしたらどうか。電柱の下にでも集積箇所を設けたらどうか。
23. 全体のごみは、減っていないと思う。資源化・分別化はしているが、家庭に入ってくるごみは同じだと思う。入力を減ずるべきである。企業はごみに出すような余分なものは、生産しない。プラスチック類も多すぎる。ペットボトルの回収率は100%になっていない、捨てられている(放置)。対策として、①ごみ減量化に寄与した企業を公表する。②軽量化を奨励③特許奨励④トラック輸送の効率化
24. 量り売りやばら売りに対して、人件費の抑制が主要な割合を占めていると思われるトレイによる商品販売は、低価格での商品提示に役立っているが、ごみの王様でもある。消費者は「安ければ良い」との安易な感覚を捨て、コスト上乗せを容認できる姿勢を持つことも大切だと思う。1品につき5円程度上乗せで人件費に回せないか。販売側は「安売りの店」に対して「高いがごみを作らない店」があっても良いではないか。
25. ごみ減量に対する考えとしては、
 - ・生ごみの堆肥化→街路樹へ。
 - ・企業に対し、環境に配慮した製品が市へ流入する時点で、なんらかの優遇措置を提供。
 - ・集合住宅への優遇措置(ポイント)。戸単位ではなく住宅単位で、本当に資源化レベルの高い状態にまで分別してもらおうなど、手間をかけてもらう。
 - ・タバコのポイ捨て/路上喫煙には厳罰。八王子市は、路上喫煙がひどすぎる。
 - ・更なるごみ回収袋の値上げ。

- ・偽造ごみ袋対策。
26. カラス対策も合わせて考えほしい。また、ルールを守れないで指定日・場所を間違えて出している場合の対処方法も考えてほしい。街が汚れている印象を拭い去れないと思う。
 27. (1) ペットボトル・牛乳パック・飲料缶を回収してくれる店舗を増やしてほしい。自宅近くのスーパーで、ペットボトル回収すれば便利だと日頃から思っている。
(2) マンション等集合住宅では、ポストにDM（ダイレクトメール）がたくさん入っているため、不要DM回収箱を作る。
(3) ごみ袋の値段が高いので、もっと低額にしてほしい。ごみ袋が高くと、悪いイメージがついてしまうため、改善を希望する。
(4) 広報・ホームページで、「1年間に〇〇gのごみが減少しました」とアピールをする。具体的な数字で表されると、やる気がでると思う。
(5) 市が、積極的にごみ減量化のアイデアを出す（どんな小さなことでも）。どの自治体でも一様に「ごみ減量化」といっているが、市が取り組んでいることが、もっと、はっきりと示されれば、市民は協力しようという気持ちになると思う。
 28. 消費者が、もったいないという思想を持てるように、学校教育で教えるべき。もったいないという発想が、今の時代全くなく、使い捨てが当然のようになって安くて壊れやすいものが多い。
 29. (1) 体制ができていないため、プラのごみを不燃扱いにしていると聞いているが、早く可燃OKとしてほしい。
(2) 草は可燃扱い、木の葉は2袋までOKと処理しているが、OKの量と区別を明確に伝えてほしい。
 30. ごみの減量が目的ならば、もっと市民の意識を変えた方がよいと思う。市広報などでのアピールや、リサイクルしたものがどんな経緯をたどるかなど。昨年の回収方法が変わってから、平日の朝が忙しくなり、分別によるイライラもでてきた。高齢化が進む今、現行の回収方法は、お年寄りには決して優しいものではないと思う。従来の集団回収で、リサイクル品は週1回程度の回収が適当と思う。あまりややこしいと、家のためこむ人やきちんと分別せずに出す人とかもでてくると思う。家の前にごみ袋が放置されるのも、臭いや本来きれいにしておきたい場所なのにととても不快である。
 31. 質問に適正に答えられない。市として行う施策、あるいは各自治会として行う運動とするか、部の施策として行うのか、一人ひとり個人の施策なのか、国の法律・政令に盛り込むか。
 32. 生ごみ処理システムを作る。家庭でのごみを減らすよりも、会社や業者のごみを減らすようにすれば全体的に減ると思う。
 33. 集合住宅に住む若い世代に、ごみ分別の意識がほとんど見られない。ごみ集積所にごみカレンダーをパウチしたものを貼ることや、コンビニエンスストアなどの協力を得て、“ごみ分別推進マンガ”を配布するなどしてはどうだろうか。

34. ドイツに住んでいたことがあるが、ドイツのごみの分別は大変進んでいる。今、八王子が実施していることは、10年前には当たり前に行われていた。生ごみも分別して市が集め、有機肥料としてリサイクルしている。包装は有料のものとして、当たり前前に市民意識に根づいている。一度ドイツを訪問され勉強されるとよいと思う。
35. ごみ処理場の見学会を行う。ごみ減量実践事例集を集めて広報する。10年以上前からコンポスターを使っているが、もっと普及すべきだと思う。コンポスターを上手に使っている市民からノウハウを集めて、普及したらよいと思う。
36. ペットボトルの使用から、リターナブルビンの使用へと切り替えていくために、ペットボトルに対して税金をかけ、その使途としてリターナブルビン販売に際しての補助金として交付する。このことによってペットボトル使用を減らし、リターナブルビンの使用を増加させるという方法が考えられる。その税金の方法としては、法定外目的税を用いるか、国に働きかけるという形が考えられる。法定外目的税を用いる場合には、事業者に対して狙い撃ちをした税だと解釈され、山梨県において検討されているミネラルウォーター税のような混乱が起こりうる。そのために、課税対象はなるべく平等になるように考慮していく必要がある。
- 違う点では、不燃ごみ対象品目を減らすということが考えられる。プラスチック容器などは資源ごみとして回収していくべきである。不必要に有料化の袋に入れる品目を増やすことは、税負担が重く感じるようにもなりかねない。特に不燃ごみは体積が大きいので、早急に取り組む必要がある。
- 可燃ごみに関して、紙などは減らす余地はあるが、生ごみはなかなか減らせない。そこで堆肥化するボックスや機械の販売促進を、補助金を用いてさらに拡大させていく必要がある。現在も行われているがまだ不足している。
- 最後に、資源ごみの品目を増やすことが、一つの対策であるということをおきたい。
37. 事業者自らが、ごみが出ないように販売体制を見直す。容器類はデポジット制を設け、回収に力を入れてもらう。売りっぱなしで、ごみの回収は自治体に負担させるのはおかしいと思う。
38. 当市のごみ減量と資源化推進策とその成果について、市内全小・中学校に教育資料として提供し、環境問題等子どもたちの教化徹底について依頼する。
- ルール・マナーに反するごみ出し行為に対する注意・指導メモを制定し、該当行為がある場合、収集時にポストに投入する等徹底を図る。
39. プラスチック系包装材等の資源物化を、さらに拡大してほしい。当市が採用する資源化プラスチックは、家庭で出す同系物材の1/3程度に過ぎない。当該分別には甚だ手数を要し、資源化のブレーキにもなっている。(ビニール系も含めて資源材に含めてほしい。)
40. 「環境にやさしいお店」だから利用するというのではなく、便利さや安さなどを考えて買い物に行くので、特定の小売店というのではなく、たくさんの小売店にごみの発生を抑制に協力してもらうことを推進していくことが大切だと思う。また、市民には、ごみがどの程度減ったかということが伝わってこない。例えば、有料袋に1

年ごとの成果をプリントするなど、もう少し伝わる方法を考えてほしい。

- 4 1. リサイクルの徹底。もっとごみの種類を分けてもいいと思う。透明なプラスチックの容器などは溶かして再利用できそう。生ごみ処理機を、各家庭により手軽な値段で購入してもらおう。または、1～2週間レンタルすることができるようにする。積極的な市民のために、ごみ減量のために必要な説明会を開き、実際に働いてもらう。特に優良な人には「優良市民」として認定し、公共施設（市民プールなど）の割引券を渡す。
- 4 2. モニター連絡会でもらった資料によると、ごみの回収量総量が減り、資源ごみの回収量が増えたとのこと。これは、市民が出すごみの数字であると認識して良いのだろうか。事業系のごみはどうなったのだろうか、増えたのだろうか、関係ないかもしれないが事業系のごみの排出量と加味していかないと、トータルの問題解決には繋がらないと思う。
また、不法投棄は増えたのだろうか。山の中等目立たない場所に捨ててしまうことへの監視も重要だとは思いますが、通常の資源ごみ回収箇所に置きっぱなしになっている未回収のごみが増えたと思う。この回収されないごみは、どうなるのだろうか。ずっと置きっ放しになるのだろうか。それとも、自治会等が費用を負担しなければならないのだろうか。もうひとつ、不法投棄の監視に掛かる費用増はどれくらいなのだろうか。ごみ袋の販売に伴う収入と袋の製作費、販売箇所への手数料等を引いた収支は公に開かれているのか。もし、現状公開されているのであれば、教えてほしい。
また、燃えるごみの生ごみ率が以前よりも増えたとの話があった。ごみの排出そのものを減らすためには、今後考えなければならないことは、生ごみをどうするかという問題になってくるかと思う。素人なのでよくわからないが、生ごみだけを回収して堆肥を作る事は難しいのだろうか。どこかそういう取り組みをしている自治体はないのだろうか。50万都市だから、生ごみは相当の量が回収できると思う。この生ごみを堆肥にし、販売することはリスクが大きすぎるだろうか。援農ボランティアの際にも触れたが、これからの時代、高齢化が進み、元気な年配者が増えることから、比較的安い賃金で人員を確保することは困難ではないと思う。
是非、事業として見合うものだったら実現化へ向けて御検討頂けたらと思う。
- 4 3. ノーレジ袋月一運動では手ぬるいと思う。私たちが子どもの頃には、買い物は「買い物カゴ」持参が常識であった。もっとも、今の時代に「買い物カゴ」は受け入れられないだろうが、レジ袋を持参する程度ならば許容範囲ではないか。折しも、政府はレジ袋を有料化と言いだした。有料も高額にすると、自然と皆さんマイ・レジ袋を持参するようになる。プラスチックのごみ出しについて、我が家では、今でも理解できない。分別に真剣に取り組もうとすれば、疑問が出てくる。プラスチックについては、もっと啓発を進められた方がいいのでは。ごみ減量運動は、大賛成である。今後も大いに、厳しく推進してほしい。
- 4 4. ごみの減量にも限度があると考え。ごみを出にくい製品の開発をメーカーにお願いするとともに、ごみが出てもすべてリサイクルできるような技術開発が必要であ

ると思う。

45. (1) 大口事業所、大学・短大・高等、大型団地、大型マンション等大量に発生する事業所に協力を申し入れ、目標減量数値を設定してもらおう。(原則として1年間)達成した事業所には若干の報奨金を支払う。
 - (2) 減量値を出来るだけ金額換算する。難しいことかもしれないが、例えば20,282トンの減量が回収コストでどの位の金額に換算出来て、その数字が市予算にこれだけプラスしているとPRする。市民の協力が得られること間違いがない。
 - (3) 市報に毎月の減量値を掲載する。
 - (4) 資源物回収を町内会だけでなく、マンション管理組合にも協力を申入れる。(町内会に加入していないマンションも多数あるため) 継続して協力する管理組合には若干の協力謝礼金を支払う。
 - (5) リサイクル・ごみ減量フェスティバル(仮称)を年1回開催する(会場:富士森公園、上柚木運動場等、毎年場所を変えて実施)。各種イベント、ゲーム、フリーマーケット、リサイクルコーナー等で周知する。
46. 「物を大事にする心」を市民の皆さんが持つことが、間接的にごみを減らすことになると思う。現代は何でも簡単に手に入る時代だが、昔の人は、壊れた「モノ」を修理したりして、「モノ」をととても大事にする心を持っていたように思う。「昔の人に学ぶ“モノ”とのつきあい方」などといった講演や本があったらぜひその内容を知りたい。
47. 品物を買った時の包装は過剰なものが多く、市民一人ひとりが簡易包装でよい、レジ袋はいらない、と言えることができれば(特に男性)良いのと思う。また、企業側も、更に不必要なパッケージは除くように力を入れて欲しいと思う。最近子どものおむつがとれ、就寝時のみ使うようになったので、使用したおむつが少なくなった。おむつ袋が大きいサイズのみなので、小さいサイズのものがあれば更にごみが少なくなると思う。
48. ごみにするのも、資源になるのも使う者の自覚が必要だ。よって、小さいうちから(保育園、幼稚園、小中高校)生活習慣や授業で取り組み、子どもたちにごみ減量の意識をうえつけてもらいたい。また、テレビのCMなどでも働きかけてほしい。
49. リサイクル技術の拡大、リサイクル開発事業の開発資金援助。
50. 現在、不燃ごみとしているものの中には、資源として利用できるものがあるように思う。分別方法を再検討する必要があると思う。可燃ごみとして分別している野菜くずを、再利用するための方策を考える必要があると思う。
51. 例えば、プラスチックの容器に入って売られているものは、家に帰ってそれを取り出したとき、その容器はごみになってしまう。資源ごみとはいえ、分別する手間を考えると、量り売りできるものは量り売りにするなど、ごみがでないように、売る側も考えて欲しい。そのためには、消費者側も要望を出さないといけないのだと思う。
- また、市には、プラスチックの資源ごみの回収品枠を広げることを希望する。昨年

ごみ有料化の説明会に参加したとき、八王子には回収してリサイクルできる施設がなく、違う自治体に委託しているため、回収品目が少ないと聞いた。しかし、リサイクルのマークがついているのに、不燃ごみとして出さないといけないと士気が下がってしまうと思う。なんとかそういう施設も設けて欲しい。以前も拝見したような気がするのだが、ごみを減らす知恵を市民から募集して、広報などで紹介してもらい、ごみ削減レースなど行くと気合いが入ると思う。

- 5 2. レジ袋を使わず、買い物袋を持参すると、スタンプやポイントで還元する店も増えたが、それだけの方法だとごみは減量しないと思う。ある店では買い物袋を持参しないと、10円程度レジ袋代を支払うシステムになっている。そういう形だと、利用者が積極的に買い物袋を持参ようになるのではないか。また、これは特定の店だからできることかもしれないが、米屋で専用の米袋を購入し、それに米を詰めてもらいようにするとスタンプを三倍集めることができる、クリーニング店で、会員としての費用を支払うと、専用の袋（使い捨てではない大きめの買い物袋のようなもの）をもらえて、仕上がった服をそれに入れて持ち帰ることができるようなシステムなどを取り入れている店もある。これは、ごみの減量に大いに役立っていると思う。
- 5 3. 食材等、スーパーでは量り売りが少なく、必要以上の量を買うことになるので、結果として無駄に捨てる部分がある。販売コストは上昇するだろうが、量り売りで必要最小限を替えるようにすることができれば、生ごみの低減につながると思う。
- 5 4. 制度が導入されて、半年以上が経過した。今後は、慣れが一番怖いと思う。また、これ以上の成果は、あまり望めないと考える。市民の皆さんは、積極的に導入時に参加をしたが、ごみそのものの量を減らさない限り、分別の限界はあると思う。その意味では、各個人がごみを出さない工夫が必要だと思う。分別収集による減量は、現時点では成功したと思う。今後はこれを維持していくことが重要なことであり、個人のごみ意識を向上していくことが一番であると考えている。具体的な方法とはなにか、例えば、必要以上の食事を作らないとか、買いだめをしないとかはどうだろうか。小さいことからこつこつと。どこかの国会議員の言葉ではないが、身近にできることを投げかけていくことが必要ではないだろうか。
- 5 5. ごみの減量問題は、国民全体が共通の認識を持って取り組めるように、まずは自治体ごとに「分別方法や分類が違う」ということを徐々に減らしていけば良いと思う。
- 5 6. 地球の汚染化は、もう私たちの考えにも及ばないほどの速さで進んできている。現実をもっと個人が実感として、その危機を持つ必要がある。ごみ減量は、私たち一人ひとりが今できる最大のものだと思う。市でも、もっと力を入れPRして欲しい。
- 5 7. コンビニ、スーパーなどは、1個や2個の買い物の場合、シールで済ませる旨の連絡を店に貼り出す。スーパーなどの袋は、希望者以外は無条件で渡さない。
- 5 8. 有料化が始まって8ヶ月、ようやく分別化に慣れた段階で、減量意識はまだそれほど高くないと思う。焼却処理、埋立て処理の施設確保がますます困難な状況にあること、ごみ減量徹底の必要性をくり返しPRし、有料化後の減量率、資源物回収の

増加率等の成果をこまめに発表することで、まずは減量意識を高めることが必要と思う。

59. 年に1日でもごみのことを改めて見直す日を決め、キャンペーンをする。
60. ごみ減量とは少し離れるかもしれないが、プラスチック回収に透明のトレイを入れたり、プラマーク（再利用）が付いているのに発泡スチロールだけなのかが納得いかない。袋代もかかり、市民としては、極力お金をかけず再利用してごみを出したいと思っている。魚、ミニトマト、しめじ、菓子袋、ヨーグルト等、食事に関するものは、無料袋にならないだろうか。本当に不燃のごみは、有料の不燃ごみ袋に入れるようにしてはどうだろうか。このことは、多くの方が思っているようだ。
61. 共同住宅の問題があると思うが、ここに絞り徹底を図るために進めていただきたい。ごみ集積箱をなくし、一般家庭と同様に、各棟の出入りに指定の日に置ようにしてほしい。集合住宅に住んでいるが、いやなことがたくさんある。共同生活だからということで規則を守らないのは、とんでもないことである。自治会と市と協力し、精神的なチラシではなく、行動で規則を作ろう。
62. リサイクル、リユース、リデュース、＜3R＞の市民の意識改革。やはり、小さい頃から自分たちの出す「ごみ」について、学ぶことが必要だと思う。高齢の両親を見ていると、分別がわかりづらいようなので、分別しやすいように、商品ごとにわかりやすい色別のシール等がついていたら良いと思う。市でも、大きなポスター（カラーなら尚良い）を各家庭に配布し、分別の徹底を図ることも必要だと思う。また、ポスターを見る度に、「ごみ」に対する意識も高まり、ごみ減量も期待できるのではないだろうか。
63. ごみの有料化はとても効果のあることだが、一部の方はそんなこともおかまいなしに分別せずに回収に出している。その分を減量するためには、商品自体の包装を削減していくことが効果的だと思う。また、資源物（特にプラスチック、紙）の分別方法を、もう一度分かりやすく説明してほしい。有料化になった当初、分別の仕方がほとんどわからなかった。ごみ回収場所に、誰か教えてくれる人が立っていたら便利だろうと思ったこともあった。回収場所に誰かが立っていたら、ごみを出すときに気をつける人が増えるのではないかと思う。いろいろ問題点がある意見だが参考にしてもらいたい。
64. 使い捨てを少なくするように努力する。園児の頃からごみに対する意識を教えるように、国などに要望すると良いと思う。または、市職員の方が園児に話をする機会を作ってみると良いと思う。
65. 容器のデポジット制の採用。過剰包装を減らす。レジ袋の有料化のように過剰包装するとお金がかかるという制度の設定が必要。食物の廃棄が多すぎる。あらゆる手段（条例化、市民活動との協働、スーパー、コンビニとの協働）を使い、大キャンペーンを実施し意識の改革と規制により効果を上げる。
66. 今実施しているごみ有料化の更なる徹底化。これだけの成果が出たと言うアピール。後は1年間のトータル成果の状況。夏の間、自宅前に出す特に生ごみの日の匂いの

対処法。

67. (1) 資源物化の拡大促進。
 - (2) 生ごみの水分減量化の促進（色々な方法の水分減量度の情報公開）。
 - (3) 有料袋は口を閉めたときに、空気漏れのより少ない構造にするべきだと思う。
 - (4) 生ごみの分別回収の検討及び調理くずの資源化。
 - (5) 生ごみに付着の多いラップ類の可燃物回収。
 - (6) 家庭用生ごみ細断機の紹介または開発。
 - (7) ごみ減量に関する不便、不具合、問題点などの情報収集と対策アイディアの募集。
68. 過剰包装はまったく必要なし。外国、特にアメリカ等見習うべきだ。ペットボトルは、各メーカーが別々のボトルを作るのではなく、統一した規格で作りメーカーが回収し、何回も洗浄・消毒し使用するのが良いと思う。
69. 指定のごみ袋になったことにより、買い物袋を持参するようになったが、それでもドラッグ・ストアやその他多くの店では、お店の袋に入れて商品を渡してくれる。そのため、以前はごみ袋として使用していたスーパーの袋が、そのままごみとなっているのが現状。この袋を少なくするためには、
 - (1) 買い物袋持参の店を、ドラッグ・ストアやコンビニ等にも広げるように要請していく。
 - (2) 各店で使ったレジ袋は、その店で回収する。等、何か良いアイディアを出し合ってより一層のごみ減量を図る必要があると思う。
70. 新聞・ITの時代、もう新聞は終わっても良い（先ずは夕刊の廃止を）。酒・ビール・醤油・牛乳・飲料水等の紙パック・ペットボトル・缶などは、昔のように瓶に戻す。（すべて廃止することは難しいので、瓶製品の価格を安くする、瓶代を返す等対策を講じる。）
71. 消費者ばかりが、努力を強いられているように思う。しかし、ごみだしのマナーも守られていないのが現実である。消費者がごみの分別をいくらやっても、生産者が、リサイクル出来ない物を作り続けるのならば、無駄だと思う。海外のリサイクル事情をもっと良く参考にし、考えていかなければならない。その実現は、企業相手なので困難。
72. 以前、テレビでごみの有料化について問う番組が放送された時、他市を例にして取り上げていた。その市は、有料化することなくごみを減らしたというのである。その原因は、市民の意識をあげたことにある。例えば、小学校に市役所の方が来て、授業の一環として「ごみの分別」を丁寧に教えており、それを家でも実施させるよう促すようにした。その他、町内会等にも分別の協力を得てもらい、地域全体でごみを減らす努力を行っているようである。八王子市の場合、既に有料化となりある程度減量しているようだが、このようなやり方でもっとごみ減量を市民に伝えるべきではないだろうか。
73. 買物では、品物にテープなどを貼ってもらい、包装をやめてもらう。スーパーの惣菜は、プラスチックのケースではなくビニールにつめている。また、夏場の麦茶は

ペットボトルではなく、家でお茶パックを使って手作りにしている。

74. あまり細かいと分かりにくい部分がでて、まちがった分別になりやすいので、あまり過剰包装をしない、お店でリサイクルできるものを増やす、などをしていった方がよいと思う。
75. 現在の不燃ごみの中には、資源ごみも多く含まれる。分別をもう少し細かくしてもいいと思う。
76. プラスチックでも、資源ごみになる物とならない物があるが、資源ごみの種類を増やすことができれば、不燃ごみが少し減る。畑が近くにあれば、生ごみを肥料として回収する。集合住宅などに生ごみ処理機をセットし、出来上がった肥料は農業をしている所へ寄付又は買い取ってもらう。ごみが少量しか出ない時、少しでも小さい有料袋を使用している。不燃物は以外に汚れがついているのですぐ捨てたいが、袋が大きすぎてすぐ捨てられない。5Lの袋（ミニ袋）が必要と思う。年寄り一人だとミニ袋でも溜らない。
77. (1) 生ごみ処理機への補助金を増やす。
(2) ビニール袋や透明なプラスチック容器は、今は資源ごみとして扱われていないと聞いたが、それらも資源ごみ対象にできないだろうか。
78. プラスチックの分別をより細分化し、資源ごみとして回収する。不燃ごみが少なくなるのは明白である。タウンハウスと混在している団地では、中層のみコンテナ使用とし、タウンハウスは個別収集して欲しい。トラックは十分に入れる地形になっている。缶・ビンの回収容器の新設は、評価できる施策である。
79. すべてのごみ、リサイクルを個別で個人の責任でやるようにする。集団のリサイクル収集をやめる。町の中のごみ収集の場所を減らし、美化に努める。現在の廃止になっている可燃物の収集所を緑化美化する。また、リサイクルの収集所も芝を張ったり街路樹を植えたりしてきれいな町並みにし、ごみの不法投棄を減らすようにする。ごみを出す人の責任を明確にし、有料の部分をもっと増やす。たとえば、植木の剪定のごみや資源ごみに関しても処理料として有料にし、個人の責任を徹底し罰則条例を作る。現在のやり方では、正直者が馬鹿を見るようなごみの出し方が放置されている。リサイクルのごみ収集所に、指定でないごみが置かれていることがよくある。プラスチックの分類があいまいなので、もう少し考えて欲しい。
80. 再生可能な原材料を使用し製品をつくるよう企業に行政側が指導し、努力をしている企業には、援助、優遇措置をほどこす。住んでいるみなみ野は、土壌が悪く、植物・作物の育成には、困難な土である。そのため、私を含め近所の方も、自作のコンポストに家庭からでる生ごみや、公園の落葉、腐葉土などまぜて堆肥を作り、土壌改良に励んでおり、生ごみの量が随分減った。けれども、コンポスト化容器が、たりない状況である。市も購入費助成ではなく、希望すれば配布してもらえらば、取り組んでいく人がもっと増えると思う。
81. 今のままでよい。逆に、公園や繁華街などの公道等を含めて、公共施設には最低限のごみ箱等を設置すべきだと思う。必要以上にごみ削減を訴え、市民の利便性を損なうのは間違っていると思う。

82. ごみになると分かっているにもかかわらず、購入しなければならないものもあるので、製造する側にもごみにならない工夫、分別しやすい工夫を期待したい。
83. 確かにごみに対する意識は、変わった。家庭で燃えるごみとして出していた物の中に、「紙ごみ」の多さにびっくりした。有料の可燃ごみの袋も、どんどんサイズが小さい物になった。ただ、ごみ袋が少し高すぎではないかと思う。ごみの減量、資源物回収量が増加したのであれば、「これからも協力をお願いします」とのことで、ごみ袋を1家庭に1枚プレゼントなどあればうれしい。
84. 些細なことでも参考になるか判らないが、子どもの頃そうした様に、なるべく豆腐や魚は個人のお店を見つけ、食器持参で求めている。野菜等は、農協へ買物袋を持っていっている。集団住宅に住んでいるが、回覧を廻しても守ってもらえない場合がある。“ごみ大作戦”を3回位熟読すれば理解出来ると思うのだが、これは各自の自覚以外にないと思う。
85. (1) 一番に思うことは、デパートの過剰包装だと思う。ユーザーがこれを辞退する勇気を持つこと。
(2) 次に、レジ袋をださないでマイバッグ持参。これがどのスーパーでも実施されると、かなりの減量につながると思う。
(3) ペットボトルを市の回収所へ出す時、1/3はキャップがついたまま出されている。中味をゆすぎ、キャップを取って出してほしいと今一度PRする。
86. 家庭用の「生ごみ粉碎・脱水機」を機械メーカーに開発させる(市内の機械メーカーに開発してもらい特許をとる)。この機械を世界中に販売し、その利益で、八王子市の全家庭に無料で配布する。八王子市の生ごみは激減し、焼却炉も人件費もさらにその他関連経費も減らせる。
87. レジ袋をやめ、買い物袋を皆が持参する。牛乳パックだけでなく、小さな紙パックなどもスーパーが回収する。家庭で物を大切にする様に、子どもにしつける。市が生ごみ処理機を貸し出し、普及させる。
88. 市の分別方法に従う時、プラスチックやペットボトル類にリサイクルマークが付いているにもかかわらず、一般ごみとして出さなければならない物があるため、慣れるまで戸惑った。全てが資源とならない点が難しいところだと感じている。
また、指定のごみ袋で出すことができないプラスチック等は、やはりレジ袋に入れて出すのが適当なため、ある程度スーパーでレジ袋をもらうことは仕方がないと思う。しかし、23区内のある区のようにレジ袋にお金を出すという提案はあまり好まれないと思うが、その辺をもう少しより良い方向へ繋げていくことはできないものだろうか。
89. 入れ方を工夫すれば、同じ大きさの袋でもずいぶん入る量が違う。そこで、ごみ袋の値段を、大きいものほど若干割高にしてはどうだろうか。問いからは外れるが、暑くなると空き缶のごみが増え、専用の収集袋に入りきらず、仕方なくレジ袋で出すことになる。専用袋を増やして頂けないか。各戸に配布された「資源物の出し方」のポスターの「空きビン」のジャム瓶が、フタのついたままのように見える。フタは不燃物、または金属性なら空き缶になるのではないだろうか。

90. 小学校や中学校で買い物袋をつくる授業をし、その買い物袋を使うように指導する。
91. 環境庁も提案しているが、スーパーの袋の有料化や簡易包装の有料化を徹底したり、アンケートの質問項目と重複するが、リサイクルした資源を利用した物をどんどん取り入れるべきだと思う。また、私たち、消費者が積極的にごみ減量をするよう推進していくためには、資源回収に協力した場合に何かポイントがつくとか、再生資源を利用した製品のほうが安価に購入できる等、利点があるほうが浸透していくと思う。